

令和6年度 第2回燕市食物アレルギー対応委員会 会議録（要旨）

日 時：令和7年1月29日（水） 15時30分から16時32分まで

場 所：燕市役所 会議室301

出席委員：松野委員、伊東委員、齊藤委員（委員長）、青木委員、落合委員、高橋委員、小嶋委員、柳原委員

事務局：教育長、教育委員会主幹、学校教育課長、こども政策部長、こども未来課長、ほか職員9人

議 題：（1）小・中学校における食物アレルギー対応について
（2）児童クラブにおける食物アレルギー対応について
（3）保育園・こども園における食物アレルギー対応について
（4）その他

【以下、会議録（要旨）】 ※個人の診療、対応についての記録は省略します。

開 会

委員長挨拶

議 題

（1）小・中学校における食物アレルギー対応について

《事務局》

① 食物アレルギー誤食事故について

令和6年6月1日から12月31日までの間に発生した学校給食におけるヒヤリハット事例について報告した。（2件）

② 市内小中学校（19校）の学校給食巡回指導の実施について

6月までに、学校給食係員が給食時に市立小中学校19校を訪問し、衛生面の確認とあわせ、食物アレルギー対応についても確認したことを報告した。

③ 食物アレルギーをもつ児童生徒・園児の保護者との情報交換会

今年度、初めて保育園・こども園にも案内し、食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換の場として開催したことを報告した。

④ 給食対応している児童生徒の保護者へのメール配信システムによる連絡

食物アレルギー等で給食対応している児童生徒の保護者のみに連絡が必要な場合は、学校経由で手紙を配付していたが、より迅速に連絡するため、来年度からはメール配信システム「マチコミ」を活用することを報告した。

《意見》

○小嶋委員

ヒヤリハット事例について、誤食を回避することができて、ほっとしている。食材の原材料の確認は、検収時に調理員が行い、その後、栄養教諭が確認し、使用前にもう一度、調理員が確認することになっている。今回もきちんと確認ができていた。学校では、すべての教職員にアレルギーの情報共有がされていたこと、給食指導に入った先生の対応が誤食回避につながった。

また、商品がリニューアルすることは度々あることなので、注意すべきことである。リニューアルした際の情報提供を徹底していただくよう納入業者に依頼している。

(2) 児童クラブにおける食物アレルギー対応について

《事務局》

① 食物アレルギー等の発症について

令和6年6月1日から12月31日までの間に、食物アレルギーに関連した誤食はなかったことを報告した。

また、令和6年11月から12月に行った保護者アンケートの結果では、「おやつの一斉提供は不要」と回答された保護者が9割近くとなったことから、令和7年度以降は、おやつの一斉提供を廃止することを報告した。

② 食物アレルギー研修会について

燕市内児童クラブの職員を対象とした研修会の開催について報告した。

③ 「燕市児童クラブにおけるおやつ提供に係る食物アレルギー対応マニュアル」の改訂について

令和7年度からのおやつ一斉提供の廃止に伴い、おやつに関する記載を見直すほか、全面的に語句の使い方や言い回しを見直すとともに、実情に合わせて分かりやすく修正する案について協議した。

《意見等》

○青木委員

マニュアル改訂案のエピペン®対応の中で、「緊急性の高い症状が出現したとき」と記載が変わっている。「緊急性の高い症状」という言葉で果たして分かりやすくなったのか。

○事務局（学校教育課学校給食係）

「緊急性の高い症状」については、マニュアル（案）8ページに示している。ほか、24ページ及び28ページ（資料7）「症状チェックシート」ともに共通した表現にそろえ、マニュアルをみると具体的な症状が確認できるようにしている。

○落合委員

児童クラブにエピペン®をもっているお子さんがいる場合、緊急性の高い状況が予測される。その際に、速やかに行動に移せるように、訓練や職員間での情報共有などをする場があるのか。

○事務局（学校教育課総務企画係）

今ほど報告した食物アレルギー研修会でも、参加者全員にエピペン®トレーナーを配り、実際の使い方について実技指導を受けている。毎年、同じ内容で研修会を実

施し、全職員が受講できるように配慮している。また、受講した職員は現場に戻り、研修内容を伝達するように指示している。

(3) 保育園・こども園における食物アレルギー対応について

《事務局》

- ① 食物アレルギー等の発症について
令和6年6月1日から12月31日までの間に、食物アレルギーに関連した誤食はなかったことを報告した。
- ② 食物アレルギー研修会について
燕市内の公私立の保育園・こども園の職員を対象とした研修会の開催について報告した。
- ③ 市内保育園等の巡回指導の実施について
衛生面の確認とあわせ、食物アレルギー対応についても確認したことを報告した。

《意見等》

なし

(4) その他

○高橋委員

養護教諭から「アレルギー対応が多品目の場合は、弁当対応の対象となっているが、多品目とは何品目からの対応となるのでしょうか」との質問があった。学校給食係からは、学校の規模や対応者の人数、職員数などにより対応できるかできないかを学校で判断と言われたが、市内の他の学校がどのような対応をしているのか分からない。ある学校は何品目で弁当対応しているなど、情報提供をしていただけるとありがたい。

○事務局（学校教育課学校給食係）

養護教諭からの質問を受け、来年度、冬頃から始まるアレルギー面談の前に、説明会を設けて、市内小中学校における弁当対応の現状を含めて、説明したいと考えている。

○松野委員

体制として、どれくらいの除去が必要な場合に、栄養上の問題または対応上の問題等で難しいという線引きを、給食センターの管理栄養士と検討すれば、ある程度、対応の可否を判断ができるのではないかと。

○小嶋委員

給食センターとして、除去食代替食対応する食品は11品目と決まっている。実際のところ、給食センターからの対応は少ないが、配膳しない対応が必要なアレルギー

ギーをもつお子さんがたくさんいて、チェックに困っているという実態がある。市と学校と給食センターと検討し線引きをしてもらえば助かると思う。

○高橋委員

栄養面としては、例えば「乳・卵・魚が食べられない場合は、毎日弁当になる」など、最低限の判断ラインだけでも提示できるのか。

○小嶋委員

たんぱく源のアレルゲンについては、給食センターから代替食等を提供しているので不足することはないと思われる。ただし、特殊な魚で多数アレルギーがある場合は問題となる場合がある。

○松野委員

提供頻度が少ないものは、別のものを出すことができるのではないかと。よく出るものでは対応しにくいと思うが、たまに提供されるものであれば、対応しやすいのではないかと。

○高橋委員

学校では、多品目を対応しようと思えばできる。ただし、ずっと続けていくには無理があり、事故の原因になる。できれば、何品目以上は完全弁当対応を考慮としていただきたい。おうちの方はもちろん給食で対応していただきたいという方が多い。

○事務局(学校教育課学校給食係)

食品の出る頻度による。例えば、マンゴーとパパイヤとドラゴンフルーツとキウイにアレルギーのある人と、大豆の1品目だけがアレルギーという人では、大豆アレルギーの方が対応は難しくなる。そのため、何品目以上は完全弁当という線引きは難しい。学校で判断していただければ、給食センターで対応に合わせてチェックをする。学校判断で、決めていただきたいとお願いをしている。

○松野委員

結局、医師がきちんと診断することである。問診をして、食品をしぼれるものは多い。例えば、話をよく聞かずに「ナッツ類すべて」とするとココナッツ、くるみなども含まれ、厳密に守ろうとすると制限が多くなる。我々がきちんと問診をして制限を少なくすることが大事なので、気を付けてなるべく「すべて」としない。ほとんど給食に出ないものについては、代替食を用意してもらって給食対応を行ってもらえると良いと思う。

○小嶋委員

関連したもので、来年度の対応に向けて保護者とのアレルギー相談会を進めている。

管理指導表に不明な点があったため、再受診をお願いした例が2例ほどある。1つは、加熱することで食べられる果物ですが、「りんご」と書かれていたので、「生りんご」と記入してもらった。もう一つは、「魚卵すべて」と記入があったため、いままで食べられた筒切りの魚（例えばいわしの生姜煮など）も給食として出せない対応となるため、再受診をお願いした。

○伊東委員

学校で出す食材を家で食べていないことが多いと感じる。保育園のとき、就学の1年くらい前に、学校給食に出る食材をお知らせしてほしい。小さい子に関しては、食べたことがないことが多い。家で食べていないものについて、どう判断してよいか分からない。給食ではこのような食材が出るので食べてくださいねと言があれば違ってくるのではないかと。

○小嶋委員

毎年、春先の給食日より、今まで食べたことがないものが給食に出る時は、先に家で食べさせてみてください、という内容を載せるようにしているので継続していきたい。管理指導表で、③番（陽性反応あり）、④番（未摂取）と記載されている場合が多いと感じている。

○松野委員

最初の受診のときは、③・④番と記入することも多いが、その後、食物経口負荷試験をしている。細かいところまで全部の食物を負荷試験することはできないが、そのような形で、きちんと判断していかなければならないと思っている。本人が食べたがらないことがあるので、難しい部分もある。

燕市は非常に良く対応できている。管理指導表の記載を医師がきちんと記入することが大事だと思っている。

○伊東委員

アレルギーとは関係ないが、11月頃から感染症が流行っている。一番は咳の感染予防対策でマスクをすることが大事。保育園では無理かもしれないが、小学校ではマスクを徹底してほしいと思う。

閉 会